

# 世界の教育は、今。

海外教育事情の紹介

## 充実したスポーツ施設

—西ドイツ—

日独スポーツ少年団同時交流派遣団として、東北IIグループは団員七名と共に西独のフランクフルトより北部地区を訪問した。日本団員百二十五名が、「青少年と余暇」というメインテーマで各グループごとにサブテーマを持ち、小さな街大きな街をホームステイしながらの研修であった。東北IIグループの活動は二ーダー・ザクセン州のフリーベルゲンという小さな街から始まった。日本人が初めてといふこの街では市長さんはじめ街中の人たちが歓迎してくれた。討論会、学習会、スポーツ活動といろいろな交流を通して感じるものすべてが新鮮であり、学ぶこともたくさんあつた。

私たちが交流したドイツスポーツユース



ハンブルク市内で日独のスポーツ少年たちと  
(前列中央が筆者)

トは日本でいうスポーツ少年団であり、地域のスポーツクラブなのである。学校での部活動はほとんどなく、子どもたちは家へ帰って昼食をとり、午後は各自スポーツクラブで汗を流して後は自由時間となる。老若男女を問わずスポーツ界は地域のスポーツクラブが支えている仕組である。そのため、どんな小さな街でもスポーツ施設が整っているのに驚かされた。生涯スポーツがどこの街にいても出来るることはすばらしいと思った。しかし、これほどまでにスポーツ施設が整っていても現在の若者はお金のかかるスポーツ施設へ流れれる傾向があり、悩みのひとつになつてゐるそうだ。スポーツを指導する人たちにとっては寂しい光景だが、すべての人が競技スポーツを目指すとは限らないことからレジャー的要素が好まれるのはどの国も同じようであ

西独では六歳から十六歳までが義務教育となり、小学生四年間、中学生六年間となつてゐる。小学校をグルントシュールといい、中学へ進む時に次の三つのタイプの中から一つを選択する。すなわち、ハウプトシュール（基幹学校）から、専門学校へ、リアルシュール（職業学校）から専門学校又は高等学校へ、ギムナジウム（進学校）から高等学校へ進む三つのコースで、この時点で将来の進む道がほぼ決まると言われている。

### 「伝統と人間味を大切にする生き方」

小学校を見学した結果、日本と特別変わつてゐるところはなく、強いて言えば、職員室の机の上には教材も何も置いてないこと、ネクタイ姿で教壇に立つことはないことなどで

「伝統と人間味を大切にする生き方」

小学校を見学した結果、日本と特別変わつてゐるところはなく、強いて言えば、職員室の机の上には教材も何も置いてないこと、ネクタイ姿で教壇に立つことはないことなどで

りが強く印象に残つた。



ハーヘン市のスポーツシュール（施設）

での交歓練習

第十六回日独スポーツ少年団同時交流派遣団

指導者

太田清実

（勤務先）

平田村中央公民館